

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	カホホウジテンシカクエン 学校法人天使学園							2024年4月法人統合により名称変更予定		
フリガナ大学の名称	テンシカクガクテイクイン 天使大学大学院 (Tenshi College Graduate School of Nursing and Nutrition)									
大学本部の位置	北海道札幌市東区北13条東3丁目1番30号									
大学の目的	天使大学大学院看護栄養学研究科は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の理論及び応用を教授研究し、建学の理念であるカトリック精神に基づく「愛をとおして真理へ」に生き、知的、専門的及び応用的能力を発揮して、人間愛をもって社会の発展に寄与する高度専門職業人を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	看護学に係る先端的な教育及び研究を行うことにより、看護学の高度な専門知識と技術を教授し、自律して研究活動を行い卓越した教育上の指導両区を有する人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護栄養学研究科 (Graduate School of Nursing and Nutrition)	年	人	年次人	人	博士 (看護学) (Doctor of Philosophy in Nursing)	2024年4月第1年次	北海道札幌市東区北13条東3丁目1番30号		
	看護学専攻博士後期課程 (Doctoral Programs in Nursing)	3	2	—	6			基盤となる学部等 看護栄養学部 看護学科 大学院看護栄養学研究科 看護学専攻 修士課程 第14条特例の実施		
計		2	—	6						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	令和6年4月名称変更予定 看護栄養学研究科 看護学専攻修士課程→看護学専攻博士前期課程									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	看護栄養学研究科 看護学専攻博士後期課程	7科目	6科目	科目	13科目	14単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程	11人 (11)	5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	16人 (16)	0人 (0)	2人 (2)	
		計	11人 (11)	5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	16人 (16)	0人 (0)	2人 (2)	
	既設	看護栄養学研究科看護学専攻博士前期課程	9 (9)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	42 (42)	
		看護栄養学研究科栄養管理学専攻博士前期課程	4 (4)	9 (9)	4 (4)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	14 (14)	
		看護栄養学研究科栄養管理学専攻博士後期課程	4 (4)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	11 (11)	0 (0)	
		助産研究科助産専攻 (専門職学位課程)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	31 (31)	
		計	23 (23)	24 (24)	10 (10)	3 (3)	60 (60)	0 (0)	87 (87)	
	合計		32 (32)	29 (29)	11 (11)	3 (3)	75 (75)	0 (0)	89 (89)	

令和6年4月名称変更届出 (予定)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		19 人 (19)	12 人 (12)	31 人 (31)					
	技 術 職 員		1 (1)	1 (1)	2 (2)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	2 (2)	3 (3)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	7 (7)	7 (7)					
計		21 (21)	22 (22)	43 (43)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	9,632 m ²	0 m ²	0 m ²	9,632 m ²					
	運 動 場 用 地	18,000 m ²	0 m ²	0 m ²	18,000 m ²					
	小 計	27,632 m ²	0 m ²	0 m ²	27,632 m ²					
	そ の 他	773 m ²	0 m ²	0 m ²	773 m ²					
合 計		28,405 m ²	0 m ²	0 m ²	28,405 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		16,427m ² (16,427m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	16,427m ² (16,427m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	17室	13室	53室	2室 (補助職員2人)	1室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程		17 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部研究科単位での特定不能なため、大学全体の数		
	看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程	58,800 [3,430] (57,300 [3,400])	4,800 [3,100] (4,800 [3,100])	4,600 [3,100] (4,600 [3,100])	2,736 (2,736)	1,153 (1,153)	250 (250)			
	計	58,800 [3,430] (57,300 [3,400])	4,800 [3,100] (4,800 [3,100])	4,600 [3,100] (4,600 [3,100])	2,736 (2,736)	1,153 (1,153)	250 (250)			
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		678.06m ²		103	85,000					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		725.15m ²		-						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 前 年 度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	研究科単位での算出不能なため、学部との合計
		教員1人当り研究費等		330~400千円	330~400千円	330~400千円	-	-	-	
		共同研究費等		4,000千円	4,000千円	4,000千円	-	-	-	
		図書購入費	5,100千円	5,100千円	5,100千円	5,100千円	-	-	-	
	設備購入費	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	-	-	-		
	学生1人当り納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
		1,130千円	980千円	980千円	-	-	-			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、寄付金収入、資産運用収入、雑収入等							

大学等の名称	天使大学 (Tenshi College)								所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
既設大学等の状況	看護栄養学部 看護学科	年	人	年次人	人	学士(看護学)	1.04 1.04	平成12	北海道札幌市東区 北13条東3丁目1番 30号
	栄養学科	4	100	0	387	学士(栄養学)	1.03	平成12	
	看護栄養学研究科 看護学専攻	4	90	0	355	学士(栄養学)	1.03	平成12	
	看護栄養学専攻 看護学専攻	2	14	0	28	修士(看護学)	0.65 0.61	平成18	
	栄養管理学専攻 博士前期課程	2	3	0	6	修士(栄養学)	0.33	平成18	
	栄養管理学専攻 博士後期課程	3	2	0	6	博士(栄養学)	1.17	平成20	
	大学院助産研究科 助産専攻専門職学位 課程 助産基礎分野	2	30	0	60	助産修士 (専門職)	0.51 0.68	平成16	
	助産専攻専門職学位 課程 助産教育分野	1.5	10	0	20	助産修士 (専門職)	0.00	平成20	
	附属施設の概要	該当なし							

令和2年度入学
定員増(100
令和2年度入学
定員増(90人)

教育課程等の概要

天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻（博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤科目	生命倫理特論	1前	2			○									兼1	オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） 共同
	看護理論とその開発	1前		2		○			2							
	疫学的研究方法論	1前		2		○			1							
	質的研究方法論	1前		2		○				1						
	データサイエンス演習	1通		2			○									
	分子生命医学特論	1後		1		○			2							
小計（6科目）	—	—	2	9	0	—	—	—	5	1	0	0	0	0	兼2	—
専門科目	地域基盤看護学特論	1前		2		○			4	1						オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部）
	実践看護学特論	1前		2		○			7	1						
	地域基盤看護学演習	1通		2			○		4	1						
	実践看護学演習	1通		2			○		7	1						
小計（4科目）	—	—	0	8	0	—	—	—	11	2	0	0	0	0	0	—
研究指 導	看護学特別研究Ⅰ	1通	2				○		11	5	1					共同
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2				○		11	5	1					共同
	看護学特別研究Ⅲ	3通	2				○		11	5	1					共同
	小計（3科目）	—	—	6	0	0	—	—	11	5	1	0	0	0	0	—
合計（13科目）		—	—	8	17	0	—	—	11	5	1	0	0	0	兼2	—
学位又は称号	博士（看護学）					看護関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
修了に必要な単位数：14単位以上 基盤科目を4単位以上、専門科目の特論と演習を各2単位以上合計4単位以上 修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 研究指導科目は、在学期間に関わらず6単位まで履修可。						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数									授業形態	専任教員等の配置					備考					
			修論コース			高度実践看護師コース			保健師コース				講義	演習	実験・実習	教授	准教授		講師	助教	助手		
			必修	選択	自由	必修	選択	自由	必修	選択	自由												
ホスピス緩和ケア看護学領域	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅰ	1前				2							○			2					兼1	オムニバス	
	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅱ	1後				2							○								兼5	オムニバス	
	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅲ	1～2後前				2								○		2					兼1	共同(一部)	
	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅳ	1後				2							○			1					兼1	オムニバス	
	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅴ	1前				2							○			1	1	1			兼2	オムニバス	
	ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅰ	1前後				2							○	○		1					兼8	オムニバス	
	ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅱ	1後				1							○	○		1					兼1	オムニバス	
	ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅲ	2前				1							○	○		1	1				兼1	オムニバス	
	ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅰ	1後				4								○	○	1							
	ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅱ	2前				4								○	○	1							
	ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅲ	2前				2								○	○	1							
小計(11科目)	—	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	—	—	—	2	2	1	0	0	兼16	—		
老年看護CNS領域	老年看護学特論Ⅰ(理論・概念)	1前				2							○			1					兼1	オムニバス	
	老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価)	1前				2							○			1	1					オムニバス	
	老年看護学特論Ⅲ	1後				2							○			1					兼5	オムニバス	
	老年看護学特論Ⅳ	1後				2							○			1	1				兼2	オムニバス	
	老年看護学特論Ⅴ	1後				2							○			2	1				兼2	オムニバス	
	老年看護学展開論Ⅰ	1後				2								○		1	1				兼3	オムニバス・共同(一部)	
	老年看護学展開論Ⅱ	2前				2								○		1					兼4	オムニバス・共同(一部)	
	老年看護学実習Ⅰ	1後				4								○	○	1							
	老年看護学実習Ⅱ	2前				6								○	○	1							
小計(9科目)	—	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼13	—		
精神看護CNS領域	精神看護学特論Ⅰ	1前				2							○			1							
	精神看護学特論Ⅱ	1前				2							○			1							
	精神看護学特論Ⅲ	1後				2							○			1					兼1	オムニバス	
	精神看護学特論Ⅳ	2前				2							○			1					兼2	オムニバス	
	精神看護学演習Ⅰ	1後				2								○		1							
	精神看護学演習Ⅱ	2前				2								○		1					兼4	オムニバス	
	リエゾン精神看護学特論	2前				2							○			1					兼6	オムニバス	
	高度実践精神看護実習Ⅰ	1後				1								○		1							
	高度実践精神看護実習Ⅱ	1後				2								○		1							
	高度実践精神看護実習Ⅲ	2前				4								○		1							
	高度実践精神看護実習Ⅳ	2前				2								○		1							
	高度実践精神看護実習Ⅴ	2後				1								○		1							
小計(12科目)	—	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼8	—		
在宅看護CNS領域	在宅看護学特論Ⅰ	1前				2							○			1	1		1		兼1	オムニバス・共同(一部)	
	在宅看護学特論Ⅱ	1前				2							○			1	3				兼1	オムニバス・共同(一部)	
	在宅看護学特論Ⅲ	2前				2							○			1					兼2	オムニバス・共同(一部)	
	在宅看護学特論Ⅳ	1後				2							○			1	1	1			兼7	オムニバス・共同(一部)	
	在宅看護学演習Ⅰ	1後				2								○		1	1	1	1		兼1	オムニバス・共同(一部)	
	在宅看護学演習Ⅱ	1前				2								○		1					兼5	オムニバス・共同(一部)	
	在宅看護学演習Ⅲ	1後				2								○		1	1				兼4	オムニバス・共同(一部)	
	高度実践在宅看護学実習Ⅰ	1後				1								○		1		1				共同	
	高度実践在宅看護学実習Ⅱ	1後				2								○		1		1				共同	
	高度実践在宅看護学実習Ⅲ	2前				4								○		1		1				共同	
	高度実践在宅看護学実習Ⅳ	2前				2								○		1		1				共同	
	高度実践在宅看護学実習Ⅴ	2前				1								○		1		1				共同	
小計(12科目)	—	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	—	—	—	1	3	2	1	0	兼18	—		
保健師コース	公衆衛生看護学原論	1前							2				○			1	2				兼1	オムニバス	
	公衆衛生看護学活動Ⅰ	1前							2				○			1			1			オムニバス	
	公衆衛生看護学活動Ⅱ	1後							2				○			2			1			オムニバス	
	健康学習支援演習	1後							2				○			2			1			共同(一部)	
	家族看護学特論	1前							2				○			1	1		1			共同(一部)	
	公衆衛生看護学診断	1後							2				○	○		1	2		1			共同(一部)	
	公衆衛生看護学管理	1後							2				○			1					兼1	オムニバス	
	健康危機管理特論	1後							2				○			2			1			兼4	オムニバス
	産業・学校保健活動論	2前							2				○			1						兼5	オムニバス・共同(一部)
	地域ケアシステム論特論	2							2				○			1	2					兼1	オムニバス
	公衆衛生看護学課題研究演習	1後							2					○		1	2					共同	
	家族看護学継続実習	1後							2						○	1			1			共同	
	公衆衛生看護学展開実習	1後							2						○	2						共同	
	公衆衛生看護学管理実習Ⅰ	1後							2						○	2			1			共同	
	公衆衛生看護学管理実習Ⅱ	2前							1						○	1						共同	
小計(15科目)	—	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	—	—	—	1	2	0	1	0	兼12	—		

専門分野専門科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数									授業形態			専任教員等の配置					備考			
			修論コース			高度実践看護師コース			保健師コース			講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
			必修	選択	自由	必修	選択	自由	必修	選択	自由												
特別看護研究		2前後	8											○			6	2	1				共同
ホスピス緩和ケア看護課題研究		2前後				2								○			1						共同
老年看護課題研究		2前後				2								○			1	1					共同
精神看護課題研究		2前後				2								○			1	1					共同
在宅看護課題研究		2前後				2								○			1	2					共同
公衆衛生看護課題研究		2前後							4					○			1	2					共同
小計(6科目)		—	8	0	0	0	8	0	4	0	0			—			7	5	1	0	0	0	—
合計(95科目)		—	70	33	0	110	30	0	53	18	0			—			9	6	2	1	0	0	■104
学位又は称号		修士(看護学)	学位又は学科の分野									看護関係											
卒業要件及び履修方法												授業期間等											
修了に必要な単位数：30単位以上 【修士論文コース】専攻分野ごとに定める専門科目を履修・修得すること。 【高度実践看護師コース】高度実践看護師資格を取得するためには、必修科目38単位を修得すること。 【保健師コース】保健師国家試験受験資格を取得するためには、必須の31単位と大学院修士課程修了に必要な30単位の計61単位を修得すること。												1学年の学期区分			2期								
												1学期の授業期間			15週								
												1時限の授業時間			90分								

教育課程等の概要																	
天使大学看護栄養学部看護学科																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
キリスト人間教育を基盤とした人間教育科目群	キリスト教学概論	1前	2			○			1					兼1	オムニバス		
	聖書の講読	1後	▲2			○				1							
	キリスト教人間学	2前	▲2			○				1							
	キリスト教思想論	2後	▲2			○				1							
	人間形成とキャリアデザインⅠ	1前	1			○					2				共同		
	人間形成とキャリアデザインⅡ	2後	1			○					1	1			共同		
	人間形成とキャリアデザインⅢ	3後	1			○						2			共同		
	人間形成とキャリアデザインⅣ	4後	1			○					1	1			共同		
小計（8科目）		—	6	6	0	—	—	—	1	2	6	1	0	兼1	—		
教養教育科目群	共通基礎	基礎学修演習	1前	1			○		3	1					兼1	オムニバス	
		情報処理演習	1前		1			○							兼1		
		教養ゼミ	2後		2			○		3	1					オムニバス	
	自然科学	化学	1前	2			○			1					兼1		
		生物学	1前		2		○								兼1		
		データの科学	1後		2		○			1							
		科学的思考	2前		2		○			1							
	共通基礎教育科目	外国語	英語ⅠA	1前	1			○			1					兼2	
			英語ⅠB	1後	1			○			1					兼2	
			英語ⅡA	2前		1			○			1					
			英語ⅡB	2後		1			○			1					
			オーラルイングリッシュⅠA	1前	1			○				1				兼1	
			オーラルイングリッシュⅠB	1後	1			○				1				兼1	
			オーラルイングリッシュⅡA	2前		1			○							兼1	
			オーラルイングリッシュⅡB	2後		1			○							兼1	
			フランス語	2前		1			○							兼1	
中国語			2前		1			○							兼1		
韓国語	2前		1			○							兼1				
スペイン語	2前		1			○							兼1				
健康・スポーツ	健康とスポーツⅠ	1前後		1				○						兼1			
	健康とスポーツⅡ	2前後		1				○						兼1			
小計（21科目）		—	9	17	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼16			
共通教養教育科目	人間と文化	倫理学	1後	2			○								兼1		
		宗教学	1後		2			○							兼1		
		音楽概論	1後		2			○							兼1		
		美術概論	1後		2			○							兼1		
		民族と異文化理解	2後		2			○							兼1		
	人間と社会	法学（日本国憲法）	1前		2			○							兼1		
		対人関係の心理学	1前		2			○		1					兼1		
		社会学	1前		2			○							兼1		
近現代の日本	1後		2			○							兼1				
現代の政治経済	2後		2			○							兼1				
小計（10科目）		—	2	18	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼8	—		
小計（31科目）		—	11	35	0	—	—	—	3	2	0	0	0	兼23			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1前	2			○			1								
	形態機能学Ⅱ	1後	2			○			1								
	栄養代謝学	1前	2			○			1								
	微生物学	1後	2			○										兼2 オムニバス	
	病理学	1後	2			○										兼1	
	看護薬理学	2前	2			○										兼1	
	病態診療学Ⅰ	2前	2			○	○									兼1 オムニバス ※演習	
	病態診療学Ⅱ	2後	2			○										兼1 オムニバス	
	環境健康論	1後	2			○										兼1	
	社会福祉論	1前	2			○										兼1	
	保健医療福祉システム論	3前	2			○				2						兼1 オムニバス	
	生涯発達論	1前	1			○			4							兼1 オムニバス	
	医療と倫理	2前	1			○										兼1	
	医療人類学	4後		1		○										兼1	
小計 (14科目)	—	—	24	1	0	—	—	—	5	2	0	0	0	0	兼22		
看護基礎科目	看護学原理	1前	2			○			1								
	人間関係論	1後	1				○		1	1						共同	
	看護過程とヘルスアセスメントⅠ	2前	2			○			1	4	1					共同	
	看護過程とヘルスアセスメントⅡ	2前	1				○		1	4	1					共同	
	基礎看護技術論Ⅰ	1前	1				○		1	4	1					共同	
	基礎看護技術論Ⅱ	1後	2				○		1	4	1					共同	
	基礎看護技術論Ⅲ	2前	1				○		1	4	1					兼1 共同	
基礎看護技術論Ⅳ	2前	1				○			4	1					共同		
小計 (8科目)	—	—	11	0	0	—	—	—	2	0	4	1	0	兼1			
専門教育科目群	看護臨床科目	地域看護学Ⅰ	2前	1			○			1	1		1				オムニバス
		地域看護学Ⅱ	2後	1			○			1	2		1				オムニバス
		成人看護学Ⅰ	2前	1			○			1							
		成人看護学Ⅱ	2後	2				○		1	2	1			兼1		共同
		成人看護学Ⅲ	3前	2			○	○		1	2	1			兼1		共同 ※講義
		老年看護学Ⅰ	2前	2			○			1							共同 ※講義
		老年看護学Ⅱ	3前	2			○	○		1	1		1				共同 ※講義
		小児看護学Ⅰ	2後	2			○			1	1	1					オムニバス
		小児看護学Ⅱ	3前	2			○	○		1	1	1				兼1	オムニバス ※講義
		母性看護学Ⅰ	2後	1			○				1	1	1	1			
	母性看護学Ⅱ	2後	2			○			1	1	1	1				兼1	オムニバス
	母性看護学Ⅲ	3前	1				○			1	1	1	1				オムニバス
	精神看護学Ⅰ	2後	1			○			1							兼1	
	精神看護学Ⅱ	3前	2			○			1	1		1				兼1 共同	
	精神看護学Ⅲ	3後	1				○		1	1		1				兼2 共同	
	在宅看護学Ⅰ	3前	1			○				1		1					オムニバス
	在宅看護学Ⅱ	3後	2			○				3		2					共同
	家族看護学	3前	1			○				1							兼2
	医療安全	3前	1			○					1						オムニバス
	多職種連携	1後	1			○			1	1	1						オムニバス
多職種連携演習	3後	1				○			1	1	1	1				兼1 共同	
看護倫理	4前	1			○											兼2 オムニバス	
臨地実習科目	基礎看護学臨地実習Ⅰ	1後	1					○	1		4	1					共同
	基礎看護学臨地実習Ⅱ	2後	2					○	1		4	1					共同
	成人看護学臨地実習Ⅰ	3後	3					○	1		2	1					共同
	成人看護学臨地実習Ⅱ	3後	3					○	1		2	1					共同
	老年看護学臨地実習Ⅰ	2後	1					○	1	1	1	1	1				共同
	老年看護学臨地実習Ⅱ	3後	3					○	1	1	1	1	1				共同
	小児看護学臨地実習	3後～4前	2					○	1	1	1						共同
	母性看護学臨地実習	3後～4前	2					○		1	1	1	1				共同
	精神看護学臨地実習	4前	2					○	1	1		1					共同
	在宅看護学臨地実習	4前	2					○		3		2					共同
小計 (32科目)	—	—	52	0	0	—	—	—	6	7	9	7	0	兼20			
小計 (54科目)	—	—	87	1	0	—	—	—	7	7	9	7	0	兼42			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
統合発展科目群	生と死の看護ゼミ	2後	1				○		1	1	1	1		共同
	ホスピス・緩和ケア論	3前	1			○					1			オムニバス
	ヘルスプロモーション活動論	3後		1		○				1		1		オムニバス
	リハビリテーション看護学	4前		1		○					1			兼2 オムニバス
	国際保健学	2前		1		○			1	1				兼2 オムニバス
	国際保健学演習	2後/3後		1			○		1	1				兼4 オムニバス
	看護英文講読	3後		1		○			1					共同
	看護研究の基礎	3後	1				○		1	1				共同
	看護研究	4前後	2				○		1		1			共同
	看護管理	4前	1			○								兼1
	災害看護学	4前	1			○				1		1		オムニバス
	看護教育学	4前		1		○								兼2 オムニバス
	統合看護臨床実習	4前	2					○		1	1	1		共同
	統合看護技術演習	4後	1					○		1	1	1		共同
小計 (14科目)		—	10	6	0		—		4	5	5	4	0	兼9
合計 (107科目)		—	114	48	0		—		11	9	9	7	0	兼71
学位又は称号	学士 (看護学)		学位又は学科の分野				看護関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
キリスト教を基盤とした人間教育科目群は必修科目6単位、選択必修科目(▲)4単位以上、教養教育科目群は必修科目11単位、選択科目9単位以上、専門教育科目群は必修科目87単位、統合発展科目群は必修科目10単位、専門教育科目群・統合発展科目群の選択科目2単位以上の合計129単位以上修得すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	生命倫理特論	(19 船木 祝/15回) キリスト教の人間観を基盤に終末期医療、緩和ケア、生殖医療、臨床研究倫理等、具体的で多様な側面から保健・医療の場における生命倫理について検討する。	
	看護理論とその開発	(概要) 看護理論が発展した歴史的背景を理解し、看護実践に適用する理論の妥当性や有効性、および看護現象を概念化する過程を学び、看護学の理論を発展させる基盤を養う。 (オムニバス方式/全15回) (② 服部 容子/9回) 看護学の動向と現状、看護理論の歴史的変遷およびその分類と主要理論についての理解を深める。 (① 中村 由美子/5回) 中範囲理論（ペプロー、ニューマン、ワトソン等）、実践理論（カルガリー家族システム看護、小範囲理論等）を手掛かりに看護現象を分析・評価し、理論の看護実践への適用について理解を深める。 (② 服部 容子・① 中村 由美子/1回) (共同) 学生が関心のある看護現象について、理論構築のアプローチを活用してプレゼンテーションを行うことを通して、看護学の理論を発展させる基盤を養う。	オムニバス・共同（一部）
	疫学的研究方法論	(④ 松田 ひとみ/15回) 人々の健康生活と幸福の実現に寄与する高度な専門的看護実践の意義をふまえ、疾病の回復とその予防や健康の維持・向上に関連する現象の解明と介入の効果の検証のために、疫学研究の理論と活用方法を理解する。 具体的には、疫学的研究および統計学的解析の理論と方法に関する基本的な学修に基づき、観察研究と介入研究に関する研究論文をクリティカルに評価する方法を理解する。これらの知識をピアレビューとディスカッションにより精錬し、自己の研究課題と研究デザインに対する展望をもつことができる。	
	質的研究方法論	(概要) 質的研究法における哲学的基盤とその方法の特徴について概説し議論により理解を深める。質的研究のデータ収集、分析、結果の記述について、実践を通して現象を探究する質的研究の実際とその意義を学ぶ。これらを通して、研究者としての姿勢を備えるために自らに問い、研究を遂行するために必要な能力の強化を図る。 (オムニバス方式/全15回) (13 小澤 涼子/8回) 看護科学のパラダイムと質的研究の哲学的基盤、看護学における知の創造と質的研究の意義について概説し、質的研究方法のうち、現象学やエスノグラフィーについて理解を深める。 (18 青木 雅子/3回) 質的研究方法のうちグラウンデッド・セオリーの概念、方法についての理解を深める。 (13 小澤 涼子・18 青木 雅子/4回) (共同) 学生によるインタビューによるデータ収集、分析、結果についてプレゼンテーションおよびディスカッションを通して、研究を遂行するために必要な能力を強化する。	オムニバス・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	データサイエンス演習	<p>(概要) 看護や保健医療の場における問題を自ら発見し分析するための手法を学ぶ。具体的には、データサイエンスに必要な適切なアルゴリズムを用いた統計的手法を学習するとともに、健康状況を客観的に評価するために必要な各種測定方法や実験の手技を学び、フィールド調査に応用する。一連の学習を通して自己の研究課題の解決につなげる力を養う。</p> <p>(2 伊藤 治幸・4 榊 建二郎/15回) (共同) 公的統計資料を活用したデータ分析、生体のストレス応答と酸化ストレス、生理学実験方法について演習を通じて理解を深める。健康状況を評価するための各種測定について演習を通じて理解を深める。</p>	共同
	分子生命医科学特論	<p>(4 榊 建二郎/8回) 遺伝子やゲノムに関わる生命事象に注目し、身近な食品などを例に遺伝子組み換え技術についての理解を深め、更にはこれを活用した遺伝子医療や再生医療に関わるトピックスを学ぶ。これを通して、近い将来において重要度を増していく遺伝子医療・ゲノム医療に親しんでいただくことを目標とする。</p>	
専門科目	地域基盤看護学特論	<p>(概要) 地域基盤看護学において重要となる理論と概念を分析し、現代社会における課題とその背景を科学的に探究する。保健・医療・福祉に関わる課題を看護の視点から幅広く分析し、人々が現代社会においてよりよく生きることを支援するための新たな看護を検討し、博士論文を作成する基盤となる研究の動向、研究方法の吟味へつなげる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 伊藤 治幸/2回) 危機理論、ストレス・コーピング理論について理解を深める。</p> <p>(④ 松田 ひとみ/4回) ケアリング、ヒューマンケアの理論と概念について理解を深め、看護ケアの質保証に関する看護実践現場の現状と課題、展望について理解を深める。</p> <p>(11 吉田 礼維子・13 小澤 涼子/4回) (共同) 地域ケアシステムに関連する理論、ヘルスプロモーションの歴史の変遷、基本概念について理解を深める。</p> <p>(④ 松田 ひとみ・2 伊藤 治幸/2回) (共同) ヒューマンケア科学の概念とその動向、今日的課題と今後の展望について理解を深める。</p> <p>(11 吉田 礼維子・④ 松田 ひとみ・2 伊藤 治幸/3回) (共同) 学生の関心領域の基盤となる研究の動向と課題についてプレゼンテーションを通して看護研究の方向性を検討する。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	実践看護学特論	<p>(概要) 看護実践において重要となる理論と概念を分析し、ライフステージ、健康状況、家族および環境における健康に関する課題と支援を看護の専門的知見をもとに探究する。 専門知識や理論に基づく現状分析、文献の検討を通して、人々のより健康で安寧な生活への支援を探り、博士論文を作成する基盤となる研究の動向、研究方法の吟味へつなげる。 本科目は、前半に科目担当者の各専門的知見から幅広く授業を行い、後半は主に指導教授が中心となり授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③ 日沼 千尋/1回) 小児期(新生児・乳幼児・学童期)において、様々な健康状況(救命救急、急性状況、慢性状況)にある子どもと家族の今日的な健康課題及び看護実践、医療体制に関する現状を把握し、多角的な視点からの検討・分析を通して理解を深める。</p> <p>(3 大野 和美/1回) 成人期において様々な健康状況(生活習慣に起因する心血管疾患やがんを発症した患者、急性状況)にある人々の今日的な健康課題及び看護に関する現状を把握し、多角的な視点からの検討・分析を通して理解を深める。</p> <p>(次頁へ続く)</p>	オムニバス・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目		<p>(前頁より)</p> <p>(5 城丸 瑞恵/1回) 成人期における急性・重症患者と家族、及び回復期にある患者と家族等の看護に関する現状を把握し、多角的な視点からの検討・分析を通して理解を深める。</p> <p>(1 浅井 さおり/1回) 老年期において様々な健康状況にある人々や認知症患者の今日的な健康課題及び看護に関する現状を把握し、多角的な視点からの検討・分析を通して理解を深める。</p> <p>(8 林 裕子/1回) 老年期において様々な健康状況(意識障害・寝たきり・廃用症候群等)にある人々の看護に関する現状を把握し、回復支援のための役割等、多角的な視点からの検討・分析を通して理解を深める。</p> <p>(① 中村 由美子/4回) 家族看護の概念と理論、家族の形成と支援における現状と課題について把握し、多角的な視点からの検討・分析を通して理解を深める。</p> <p>(14 草野 知美/1回) 思春期・青年期において精神障害がある人々と家族の抱える課題、看護に関する現状を把握し、支援について多角的な視点からの検討・分析を通して理解を深める。</p> <p>(4 榊 建二郎/1回) ライフステージにおける様々な健康状況と遺伝との関わり(胎児期～老年期)について理解を深める。</p> <p>(② 服部 容子/1回) 成人期において様々な健康状況(心疾患の回復期、慢性期)にある人々の看護に関する現状を把握し、多角的な視点からの検討・分析を通して理解を深める。</p> <p>(③ 日沼 千尋・3 大野 和美・5 城丸 瑞恵・1 浅井 さおり・8 林 裕子・① 中村 由美子・14 草野 知美・4 榊 建二郎・② 服部 容子/3回) (共同) 学生の関心領域の今日的な健康課題、及び看護実践上の問題に関連する理論や概念を追究し、研究の動向に関する文献レビューを通して研究の方向性を明確にする。</p>	
	地域基盤看護学演習	<p>(概要) 地域基盤看護学において重要となる課題の研究論文を幅広い視点で文献検討し、最新の研究の動向と研究課題を探究する。また、関心を寄せた課題に対する研究を多角的に検討し、自身の研究へと発展させるための方策を吟味し、新たな知見を創出する手がかりを掴む。また、プレゼンテーションを通して、自分の考えを論理的に説明し、様々な意見に対して応答する批判的思考力(クリティカルシンキング)を養う。</p> <p>本科目は、指導教授が中心に授業を行うが、プレゼンテーションの回においては担当教員が参加し課題内容のディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(④ 松田 ひとみ/4回) 地域基盤看護学において重要となる課題(ケアリング・看護の質保証・ヒューマンケア科学)に関連する研究論文を文献検討し、最新の研究の動向と研究課題を探究する。</p> <p>(2 伊藤 治幸/2回) 地域基盤看護学において重要となる課題(ストレス・コーピング)に関連する研究論文を文献検討し、最新の研究の動向と研究課題を探究する。</p> <p>(11 吉田 礼維子・13 小澤 涼子/4回) (共同) 地域基盤看護学において重要となる課題(地域ケアシステム・ヘルスプロモーション)に関連する研究論文を文献検討し、最新の研究の動向と研究課題を探究する。</p> <p>(次頁へ続く)</p>	オムニバス・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目		<p>(前頁より)</p> <p>(11 吉田 礼維子・④ 松田 ひとみ・2 伊藤 治幸・13 小澤 涼子/5回) (共同) 学生の関心分野における研究課題に対する文献検討を行い、自身の研究課題とその位置づけを検討する。検討内容をプレゼンテーションして、討議することで、研究課題を明確にする。</p> <p>(11 吉田 礼維子・④ 松田 ひとみ・2 伊藤 治幸/15回) (共同) 学生の関心分野における最新の研究の動向、研究課題の文献検討、フィールドワーク、予備調査等の結果についてまとめる。これらの結果から、研究課題、研究の意義、研究方法、倫理的課題について検討した内容についてプレゼンテーションを行い、検討を通じて研究計画の立案につなげる。</p>	
	実践看護学演習	<p>(概要) 臨床看護実践に関わる問題、遺伝・ゲノムなどの分子生命科学的なアプローチを必要とする諸問題を看護の専門的視点で問題提起し、文献検討やフィールドワークを通して分析し、自己の研究課題の基盤を養う。</p> <p>本科目は、特論と連動して展開し、ライフステージ各期及び多様な健康課題に関する現状と研究動向を踏まえ、実践看護の研究分野における自己の研究課題の位置づけを見極め、焦点化していく。</p> <p>主に指導教授を中心に授業を行うが、プレゼンテーションの回においては、担当教員が参加しディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス形式/全30回)</p> <p>(③ 日沼 千尋/1回) 小児期(新生児・乳幼児・学童期)において、様々な健康状況(急性期・慢性期・成人医療移行期)にある子どもへの看護実践上の問題に関する文献レビューと討議を通して、看護としての研究課題を明確化する。</p> <p>(3 大野 和美/1回) 成人期において、様々な健康状況(生活習慣に起因する心血管疾患やがんを発症した患者、急性状況)にある人々への看護実践上の問題に関する文献レビューと討議を通して、研究課題を明確化する。</p> <p>(5 城丸 瑞恵/1回) 成人期にある急性・重症患者と家族及び回復期にある患者と家族への看護実践上の問題に関する文献レビューと討議を通して、研究課題を明確化する。</p> <p>(8 林 裕子/1回) 老年期にある意識障害・寝たきり「廃用性障害」、運動機能障害がある患者への看護に関する課題と実践に関する文献レビュー及び討議を通して、研究課題を明確化する。</p> <p>(1 浅井 さおり/1回) 認知症高齢者への看護の課題と実践に関する文献レビュー及び討議を通して、研究課題を明確化する。</p> <p>(① 中村 由美子/1回) 家族への支援と看護実践上の問題に関する文献レビュー及び討議を通して、研究課題を明確化する。</p> <p>(14 草野 知美/1回) 思春期・青年期の精神障害がある患者と家族への看護、看護実践上の課題に関する文献レビュー及び討議を通して、研究課題を明確化する。</p> <p>(4 榎 建二郎/1回) 遺伝治療を巡る課題に関する文献レビュー及び討議を通して、研究課題を明確化する。</p> <p>(② 服部 容子/1回) 成人期において、様々な健康状況(心疾患の回復期、慢性期)にある人々への看護実践上の問題に関する文献レビューと討議を通して、研究課題を明確化する。</p> <p>(③ 日沼 千尋・3 大野 和美・5 城丸 瑞恵・1 浅井 さおり・8 林 裕子・① 中村 由美子・14 草野 知美・4 榎 建二郎・② 服部 容子/21回) (共同) 学生の研究課題に対する研究方法の多角的視点からの検討、フィールドワークにより研究方法および倫理的課題について検討し、プレゼンテーション及び討議を通じて研究課題を明確化し、研究計画の立案につなげる。</p>	オムニバス・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	看護学特別研究 I	<p>(概要) 文献検討及び予備研究に基づき研究課題を明らかにし、博士論文の作成に向けて全体の研究計画書を作成する。これらを通して自立して研究課題を探究する能力を養う。</p> <p>主に、主任指導教員及び副指導教員の指導を受けて進めるが、合同演習等においては、他領域の教員からの指導も受けて進める。</p> <p>(1 浅井 さおり/30回) 質的研究方法を用い、認知症高齢者へのケア提供における課題についての研究を指導する。</p> <p>(2 伊藤 治幸/30回) 実験的手法や統計学的手法を用いて、主に地域一般住民や精神に障害をもつ人を対象に、精神的ストレスや酸化ストレスに関連する課題についての研究を指導する。</p> <p>(3 大野 和美/30回) 成人期の生活習慣に起因する心血管疾患やがんを発症した患者の療養支援、病気に対するリスク認識と健康行動との関連、急性疾患の発症あるいは手術等により急性状況にある患者の看護に関連する課題についての研究を指導する。</p> <p>(4 榊 建二郎/30回) 分子細胞生物学的手法を用いて、恒常性の破綻による疾患の発症メカニズムに関わる課題の研究を指導する。</p> <p>(5 城丸 瑞恵/30回) 急性・重症患者と家族および回復期にある患者と家族に対する看護実践方法に関する研究について指導する。特にがんの周術期や救急医療・集中治療における患者理解と安全・安楽な看護技術の探求を質的研究法または混合研究法を用いて行う。さらに、周術期や救急医療・集中治療分野の看護師・学生指導看護師の課題と教育支援方法に関する研究を指導する。</p> <p>(① 中村 由美子/30回) 看護の知の発展に寄与するために、量的研究手法(共分散構造分析等)を中心に、家族看護や小児看護・地域看護を専門に学んだ看護師が実践する看護支援の評価やモデルの構築、尺度開発などについての研究を指導する。</p> <p>(② 服部 容子/30回) 質的研究方法を用いて、看護学生または新人看護師への看護技術教育や看護実践能力の育成に関する研究、および慢性疾患患者の生活者としての患者理解に関する課題の研究を指導する。</p> <p>(8 林 裕子/30回) 高齢者の意識障害・寝たきり「廃用症候群」患者、運動機能低下した患者、認知症のある患者など障害を持ちながら生活する人々に対する生活行動の回復支援のための看護の役割と生活行動の再獲得を支援するためのリハビリテーション看護について、生理学的視点や運動学視点など多角的な視点をもって探求する。そして、リハビリテーション看護の視点から自立して生活行動について介入から実践評価に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(③ 日沼 千尋/30回) 質的研究方法を用いて、急性状況にある小児、先天性疾患を持つ子どもと家族の急性期及び慢性期の看護、小児脳死下臓器移植に関連する課題を中心に、子どもの療養環境の調整に関する課題について研究を指導する。</p> <p>(④ 松田 ひとみ/30回) 高齢者看護学・ケア学の理論と高度専門的技術を開発するために、下記の研究課題を指導する。 ①高齢者の独居、孤独・孤立、抑うつ、自殺と睡眠の質に関する国際比較調査 ②社会的フレイルと虐待の予見性および会話ケア等の介入による生理学的な評価法の開発</p> <p style="text-align: right;">(次頁へ続く)</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目		<p>(前頁より)</p> <p>(11 吉田 礼維子/30回) 生活の場で生じている健康課題と地域ケアシステムの現状を分析し、地域ケアシステムの構築や推進に向けた保健師の活動に関する研究、および個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護実践における支援技術、公衆衛生看護教育方法等の研究に関する指導を行う。</p> <p>(12 長内 さゆり/30回) 質的研究方法を用いた在宅終末期ケア、地域包括ケアシステムの中で在宅療養者と家族への支援、多職種との連携・協働、退院支援における訪問看護師の役割に関する研究を指導する。</p> <p>(13 小澤 涼子/30回) 母子保健、成人保健、高齢者保健における人々や地域の健康課題と影響を及ぼす要因の分析、ならびに対象となる人々にとっての健康観と影響を及ぼす現象の解明に関連する研究を指導する。</p> <p>(14 草野 知美/30回) 精神障がいのある人々、家族が抱える課題解決に向けた支援体制と看護実践についての研究を指導する。</p> <p>(15 高橋 順子/30回) 老年看護学教育実践（臨地実習）、認知症高齢者および介護者に関わる課題に関する研究指導を質的研究方法を中心に指導する。</p> <p>(16 若山 好美/30回) 公衆衛生看護領域において、様々なライフステージ、健康レベルの地域住民の健康課題やケアシステムに関連する課題について、量的研究法やアクションリサーチを用いて研究指導をする。</p>	
	看護学特別研究Ⅱ	<p>(概要) 指導教員の指導を受け、研究計画の作成、発表、審査を経て、研究計画に基づき研究を進める。</p> <p>(1 浅井 さおり/30回) 質的研究方法を用い、認知症高齢者へのケア提供における課題についての研究を指導する。</p> <p>(2 伊藤 治幸/30回) 実験的手法や統計学的手法を用いて、主に地域一般住民や精神に障害をもつ人を対象に、精神的ストレスや酸化ストレスに関連する課題についての研究を指導する。</p> <p>(3 大野 和美/30回) 成人期の生活習慣に起因する心血管疾患やがんを発症した患者の療養支援、病気に対するリスク認識と健康行動との関連、急性疾患の発症あるいは手術等により急性状況にある患者の看護に関連する課題についての研究を指導する。</p> <p>(4 榊 建二郎/30回) 分子細胞生物学的手法を用いて、恒常性の破綻による疾患の発症メカニズムに関わる課題の研究を指導する。</p> <p>(5 城丸 瑞恵/30回) 急性・重症患者と家族および回復期にある患者と家族に対する看護実践方法に関する研究について指導する。特にがんの周術期や救急医療・集中治療における患者理解と安全・安楽な看護技術の探求を質的研究法または混合研究法を用いて行う。さらに、周術期や救急医療・集中治療分野の看護師・学生指導看護師の課題と教育支援方法に関する研究を指導する。</p> <p>(次頁へ続く)</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目		<p>(前頁より)</p> <p>(① 中村 由美子/30回) 看護の知の発展に寄与するために、量的研究手法(共分散構造分析等)を中心に、家族看護や小児看護・地域看護を専門に学んだ看護師が実践する看護支援の評価やモデルの構築、尺度開発などについての研究を指導する。</p> <p>(② 服部 容子/30回) 質的研究方法を用いて、看護学生または新人看護師への看護技術教育や看護実践能力の育成に関する研究、および慢性疾患患者の生活者としての患者理解に関する課題の研究を指導する。</p> <p>(⑧ 林 裕子/30回) 高齢者の意識障害・寝たきり「廃用症候群」患者、運動機能低下した患者、認知症のある患者など障害を持ちながら生活する人々に対する生活行動の回復支援のための看護の役割と生活行動の再獲得を支援するためのリハビリテーション看護について、生理学的視点や運動学視点など多角的な視点をもって探求する。そして、リハビリテーション看護の視点から自立して生活行動について介入から実践評価に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(③ 日沼 千尋/30回) 質的研究方法を用いて、急性状況にある小児、先天性疾患を持つ子どもと家族の急性期及び慢性期の看護、小児脳死下臓器移植に関連する課題を中心に、子どもの療養環境の調整に関する課題について研究を指導する。</p> <p>(④ 松田 ひとみ/30回) 高齢者看護学・ケア学の理論と高度専門的技術を開発するために、下記の研究課題を指導する。 ①高齢者の独居、孤独・孤立、抑うつ、自殺と睡眠の質に関する国際比較調査 ②社会的フレイルと虐待の予見性および会話ケア等の介入による生理学的な評価法の開発</p> <p>(11 吉田 礼維子/30回) 生活の場で生じている健康課題と地域ケアシステムの現状を分析し、地域ケアシステムの構築や推進に向けた保健師の活動に関する研究、および個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護実践における支援技術、公衆衛生看護教育方法等の研究に関する指導を行う。</p> <p>(12 長内 さゆり/30回) 質的研究方法を用いた在宅終末期ケア、地域包括ケアシステムの中で在宅療養者と家族への支援、多職種との連携・協働、退院支援における訪問看護師の役割に関する研究を指導する。</p> <p>(13 小澤 涼子/30回) 母子保健、成人保健、高齢者保健における人々や地域の健康課題と影響を及ぼす要因の分析、ならびに対象となる人々にとっての健康観と影響を及ぼす現象の解明に関連する研究を指導する。</p> <p>(14 草野 知美/30回) 精神障がいのある人々、家族が抱える課題解決に向けた支援体制と看護実践についての研究を指導する。</p> <p>(15 高橋 順子/30回) 老年看護学教育実践(臨地実習)、認知症高齢者および介護者に関わる課題に関する研究指導を質的研究方法を中心に指導する。</p> <p>(16 若山 好美/30回) 公衆衛生看護領域において、様々なライフステージ、健康レベルの地域住民の健康課題やケアシステムに関連する課題について、量的研究法やアクションリサーチを用いて研究指導をする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	看護学特別研究Ⅲ	<p>(概要) 指導教員の指導を受け、研究計画に基づきデータ収集、分析、論文執筆を進める。</p> <p>(1 浅井 さおり/30回) 質的研究方法を用い、認知症高齢者へのケア提供における課題についての研究を指導する。</p> <p>(2 伊藤 治幸/30回) 実験的手法や統計学的手法を用いて、主に地域一般住民や精神に障害をもつ人を対象に、精神的ストレスや酸化ストレスに関連する課題についての研究を指導する。</p> <p>(3 大野 和美/30回) 成人期の生活習慣に起因する心血管疾患やがんを発症した患者の療養支援、病気に対するリスク認識と健康行動との関連、急性疾患の発症あるいは手術等により急性状況にある患者の看護に関連する課題についての研究を指導する。</p> <p>(4 榊 建二郎/30回) 分子細胞生物学的手法を用いて、恒常性の破綻による疾患の発症メカニズムに関わる課題の研究を指導する。</p> <p>(5 城丸 瑞恵/30回) 急性・重症患者と家族および回復期にある患者と家族に対する看護実践方法に関する研究について指導する。特にがんの周術期や救急医療・集中治療における患者理解と安全・安楽な看護技術の探求を質的研究法または混合研究法を用いて行う。さらに、周術期や救急医療・集中治療分野の看護師・学生指導看護師の課題と教育支援方法に関する研究を指導する。</p> <p>(① 中村 由美子/30回) 看護の知の発展に寄与するために、量的研究手法(共分散構造分析等)を中心に、家族看護や小児看護・地域看護を専門に学んだ看護師が実践する看護支援の評価やモデルの構築、尺度開発などについての研究を指導する。</p> <p>(② 服部 容子/30回) 質的研究方法を用いて、看護学生または新人看護師への看護技術教育や看護実践能力の育成に関する研究、および慢性疾患患者の生活者としての患者理解に関する課題の研究を指導する。</p> <p>(8 林 裕子/30回) 高齢者の意識障害・寝たきり「廃用症候群」患者、運動機能低下した患者、認知症のある患者など障害を持ちながら生活する人々に対する生活行動の回復支援のための看護の役割と生活行動の再獲得を支援するためのリハビリテーション看護について、生理学的視点や運動学視点など多角的な視点をもって探求する。そして、リハビリテーション看護の視点から自立して生活行動について介入から実践評価に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(③ 日沼 千尋/30回) 質的研究方法を用いて、急性状況にある小児、先天性疾患を持つ子どもと家族の急性期及び慢性期の看護、小児脳死下臓器移植に関連する課題を中心に、子どもの療養環境の調整に関する課題について研究を指導する。</p> <p>(④ 松田 ひとみ/30回) 高齢者看護学・ケア学の理論と高度専門的技術を開発するために、下記の研究課題を指導する。 ①高齢者の独居、孤独・孤立、抑うつ、自殺と睡眠の質に関する国際比較調査 ②社会的フレイルと虐待の予見性および会話ケア等の介入による生理学的な評価法の開発</p> <p>(11 吉田 礼維子/30回) 生活の場で生じている健康課題と地域ケアシステムの現状を分析し、地域ケアシステムの構築や推進に向けた保健師の活動に関する研究、および個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護実践における支援技術、公衆衛生看護教育方法等の研究に関する指導を行う。</p> <p style="text-align: right;">(次頁へ続く)</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目		<p>(前頁より)</p> <p>(12 長内 さゆり/30回) 質的研究方法を用いた在宅終末期ケア、地域包括ケアシステムの中で在宅療養者と家族への支援、多職種との連携・協働、退院支援における訪問看護師の役割に関する研究を指導する。</p> <p>(13 小澤 涼子/30回) 母子保健、成人保健、高齢者保健における人々や地域の健康課題と影響を及ぼす要因の分析、ならびに対象となる人々にとっての健康観と影響を及ぼす現象の解明に関連する研究を指導する。</p> <p>(14 草野 知美/30回) 精神障がいのある人々、家族が抱える課題解決に向けた支援体制と看護実践についての研究を指導する。</p> <p>(15 高橋 順子/30回) 老年看護学教育実践（臨地実習）、認知症高齢者および介護者に関わる課題に関する研究指導を質的研究方法を中心に指導する。</p> <p>(16 若山 好美/30回) 公衆衛生看護領域において、様々なライフステージ、健康レベルの地域住民の健康課題やケアシステムに関連する課題について、量的研究法やアクションリサーチを用いて研究指導をする。</p>	

学校法人天使学園 設置認可等に関わる組織の移行表

補足資料

2023年度	入学定員	編入学定員	収容定員
天使大学			
看護栄養学部			
看護学科	100	—	400
栄養学科	90	—	360
計	190	—	760
天使大学大学院 看護栄養学研究科			
看護学専攻(M)	14	—	28
栄養管理学専攻 博士前期課程(M)	3	—	6
栄養管理学専攻 博士後期課程(D)	2	—	6
計	19	—	40
天使大学専門職大学院 助産研究科			
助産専攻(M)	40	—	80
計	40	—	80

2024年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
天使大学				
看護栄養学部				
看護学科	100	—	400	
栄養学科	90	—	360	
計	190	—	760	
天使大学大学院 看護栄養学研究科				
看護学専攻 博士前期課程(M)	14	—	28	名称変更
看護学専攻 博士後期課程(D)	2	—	6	課程変更(認可申請)
栄養管理学専攻 博士前期課程(M)	3	—	6	
栄養管理学専攻 博士後期課程(D)	2	—	6	
計	21	—	46	
天使大学専門職大学院 助産研究科				
助産専攻(M)	40	—	80	
計	40	—	80	